



掘削土と表土を入れ替えた

【帯広】十勝総合局は13日、河川掘削土を利用した農地かさ上げ現地見学会を豊頃町内で開いた。また、掘削土と表土を反転するという珍しい施工方法を紹介。農業の生産性向上や流域治水対策に役立つことが期待される。

同町内の十勝川下流域では近年、ほ場の冠水が頻発。地元は排水機能を高める整備を国に要望し、帯広開建の河川掘削土を利用するかさ上げを試みるようになった。

道が主導し、2024年度から安骨地域のほ場0・7㌥

掘削土と農地表土を反転

治水・農業事業が連動

十勝総合局が豊頃で見学会

での試験を開始。河川掘削土を盛り、ことし4月末までかさ上げ後の沈下観測を続けた。

今回、沈下がおおむね落ち着いたことから、掘削土と着いたことから、掘削土とそ

の下にある表土を反転させる試験施工に入った。見学会では北伸建設工業(本社・砂川)が大型プラウを取り付けたブルドーザを直線的に走らせ、土を入れ替えた。

反転均平工法の登録商標を持つスガノ創新(本社・茨城県美浦村)によると、この工法は主に水田で活用されていて、畑ではまれだという。機材が掘削土の上を進むため、作物の育成状況が部分的に悪くなる「作むら」を起こしにくく、施工手順が単純なことが利点だ。

見学会に参加した帯広開建池田河川事務所古溝幸永所長は「治水と農業、豊頃町の各事業が連動している。流域治水の全国的な良例となれば」と感想を述べた。

今後は31年度までに地域要望があつた50㌥分で反転工法を採用する見通し。工事発注は十勝総合局が担当する。